

## ネアンデルタール人と情報

校長 井上雅弘

ネアンデルタール人は、1856年ドイツのデュッセルドルフ近郊にあるネアンデル谷のフェルトホフナー洞窟で発見され、その後、南欧から中東にかけて広く発掘されています。およそ20万年? 3万年前まで生活していた旧石器時代の人類であり、平均身長165センチ、平均体重80キログラムで、骨格が太く、ずんぐりむっくり型の特徴を持っていました。遺跡から見つかった炉の跡や、斧、槍の穂先から、火を使用し、剥片石器の加工技術を有していたことが分かっています。また、死者を埋葬する習慣があり、イラク北部のシャニダール洞窟の遺跡の埋葬死体には数種の花粉も見つかっており、花を副葬品として死を悼む高度な文化を持っていたのではないかとされています。このことは現代人に比べて脳容量が大きい(1,600 cm<sup>3</sup>、現代人は1,450 cm<sup>3</sup>)ことから推察されます。

ところで、私は中学校のとき、現代人は原人からネアンデルタール人、クロマニヨン人を経て進化したと習いました。しかし、分子生物学の発達で、このことは完全に覆されました。人間の遺伝情報は細胞の核の中にあるDNAに記録されます。細胞内にあるミトコンドリアの中にもDNAは存在し、これを分析することにより、人類の進化の過程が明らかにできるのだそうです。レベッカ・キャンは世界各地の人々からミトコンドリアDNAを採取し分析を行いました。そして1987年に、現在の人類は20万年前のアフリカにいた一人の女性(ミトコンドリア・イヴ)から派生したものである、という結論に達したのです。1997年には、ネアンデルタール人のDNA抽出に成功し塩基配列が決定されると、ネアンデルタール人はおよそ3万年前に滅亡した全く別種の人類であることが決定的になりました。(以上、主として河合信和著「ネアンデルタールと現代人」文春新書による)

ネアンデルタール人がなぜ滅亡したのかについては、知性の高い現代人に駆逐されたとか、現代人との混血により現代人に吸収されたなどがありますが、後者はミトコンドリアDNA分析の結果、否定的だそうです。最近、ネアンデルタール人は現代人に比べて喉の奥(上気道)が短かったことが、滅亡の原因だという説が有力になってきました。そのため分節言語を発する能力が低く、厳しい氷河期時代に、情報を正確に伝えることができなかったというのです。すなわち、生物学的に情報伝達能力に欠陥があったのです。

情報化社会です。情報を上手に扱う技術をしっかり学んで身につけてください。さもないと、現在の厳しい時代を乗り越えられず、ネアンデルタール人のように、滅亡してしまうことに成りかねません。情報処理センターにある教育支援ソフトウェアを有効に活用することをお勧めします。